

## 【平成 30 年 9 月の経済報告】

平成 30 年 11 月 22 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。平成 30 年 11 月の経済報告をお届けします。

### 1. 全般動向

9 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：103.9、一致指数：114.6、遅行指数：119.8 となった。

先行指数は、前月と比較して 0.6 ポイント下降し、2 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.23 ポイント下降し、3 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.17 ポイント下降し、2 か月ぶりの下降となった。

一致指数は、前月と比較して 2.1 ポイント下降し、2 ヶ月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.77 ポイント下降し、3 ヶ月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.27 ポイント下降し、4 か月ぶりの下降となった。

遅行指数は、前月と比較して 1.4 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.57 ポイント上昇し、4 ヶ月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.23 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201809psummary.pdf>

### 2. 各経済指標

#### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 30 年 9 月 14 日公表）

日本経済の基調判断

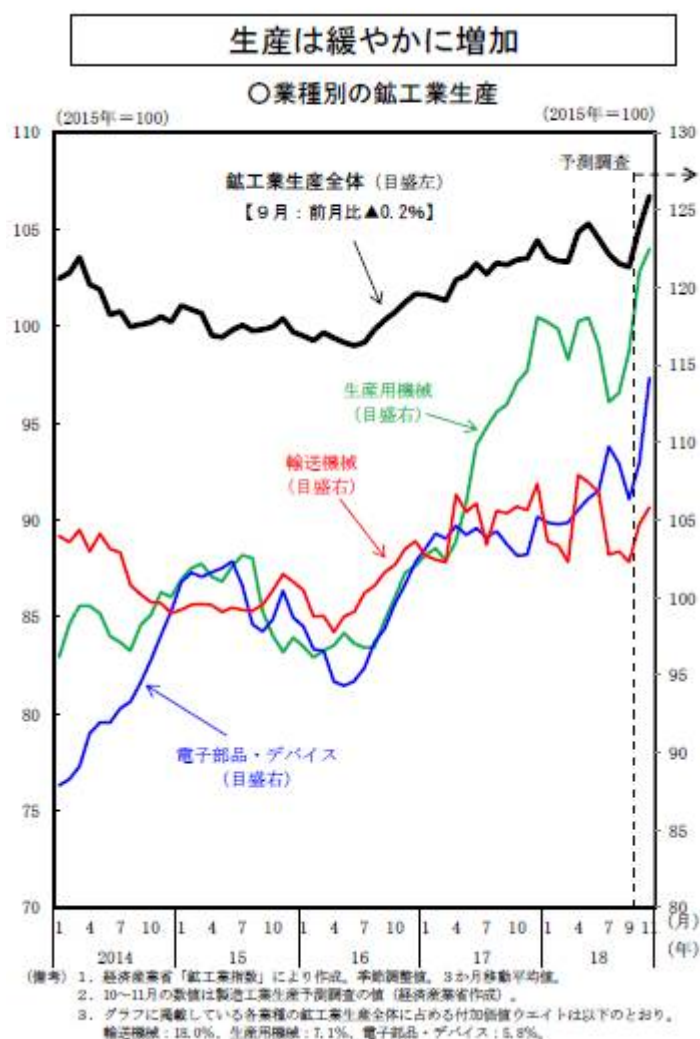
（現状）

- ・景気は、穏やかに回復している

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2018/11kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 30 年 9 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 30 年 11 月 8 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2018(平成 30)年 8 月前月比 1.8%増の後、9 月は同 17.8%減の 2 兆 2897 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 20.4%減の 9,463 億円、官公需は同 2.4%増の 2,897 億円、外需は同 12.5%減の 9,246 億円、代理店は同 2.4%増の 1,247 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2018(平成 30)年 8 月前月比 6.8%増の後、9 月は同 18.3%減の 8,022 億円となった。このうち、製造

業は同 17.3%減の 3,764 億円、非製造業（除く船舶・電力）は同 17.1%減の 4,339 億円となった。

### 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	2017年 (平成29年) 10-12月 (実績)	2018年 (平成30年) 1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (見通し)	2018年 (平成30年) 6月 (実績)	7月 (実績)	8月 (実績)	9月 (実績)
受注総額		4.0	-5.3	2.6	2.7	1.7	-14.4	18.8	1.8	-17.8
民需		3.1	-9.5	4.7	3.1	2.5	-5.9	11.1	3.9	-20.4
〃 (除船電)		0.3	3.3	2.2	0.9	3.6	-8.8	11.0	6.8	-18.3
製造業		3.5	2.5	5.5	-2.0	9.9	-15.9	11.8	6.6	-17.3
非製造業(除船電)		-2.1	3.4	-0.4	3.5	-9.6	-7.0	10.9	6.0	-17.1
官公需		-5.0	-6.4	7.5	22.4	-18.5	-16.7	57.0	-21.1	2.4
外需		0.6	-1.7	-1.3	-1.6	4.3	-12.0	6.0	7.8	-12.5
代理店		-1.4	0.3	4.9	-2.2	4.7	-15.8	11.0	-5.2	2.4

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1809juchu.html>

## ◎鋳工業指数調査

【最新プレス情報 平成 30 年 9 月分】（平成 30 年 11 月 14 日発表）

鋳工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)  
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、101.2 で前月比-1.5%の低下であった。

製造工業生産能力指数は、98.6 で前月比 0.1%の上昇であった。

### 製造工業生産能力・稼働率指数、2015年=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	101.2	-1.5	101.1	4.2	-3.1
生産能力			98.6	0.1	-0.6

### 鉱工業指数、2015年=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産	102.9	-0.4	103.8	-2.5
出荷	101.1	-2.0	103.0	-2.9
在庫	102.6	1.2	101.6	3.5
在庫率	105.2	2.4	102.6	7.1

#### <製造工業生産能力指数・稼働率指数の動向>

(1) 9月の製造工業生産能力指数は、98.6で前月比0.1%の上昇であった。

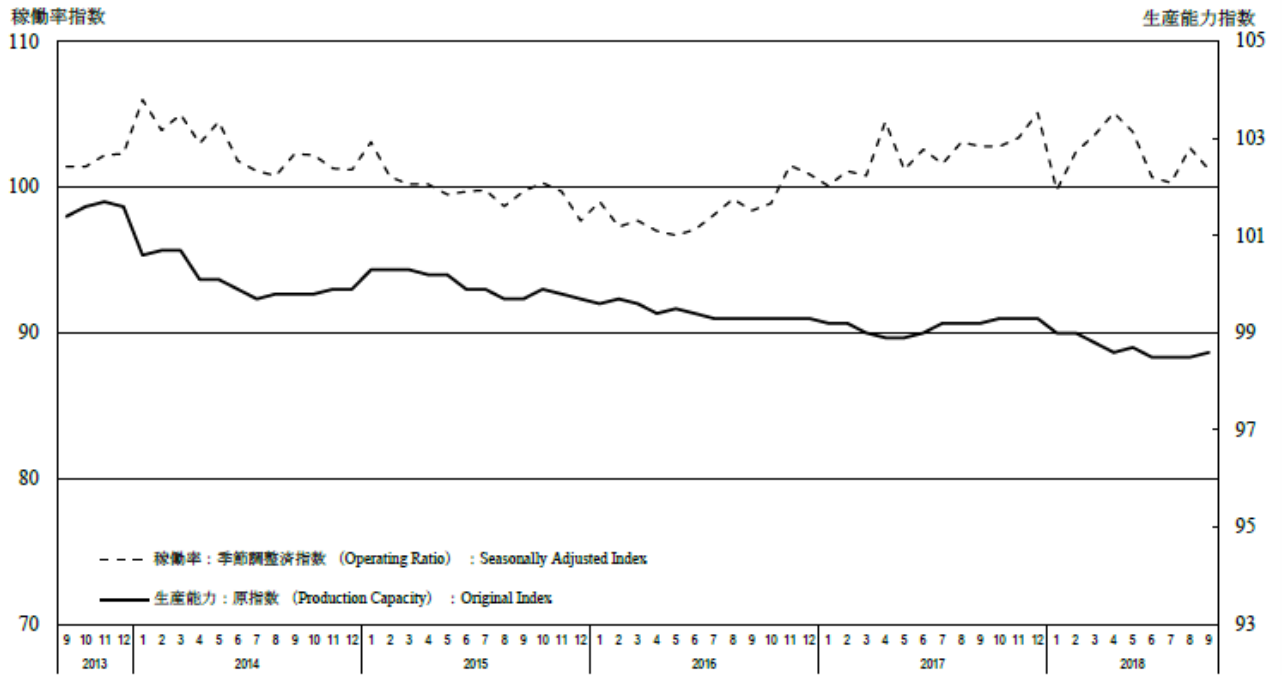
業種別に見ると、生産用機械工業同0.5%、パルプ・紙・紙加工工業同0.1%が上昇し、汎用・業務用機械工業同-0.1%、電子部品・デバイス工業同-0.1%が低下した。

(2) 9月の製造工業稼働率指数は、101.2で前月比-1.5%の低下であった。

業種別にみると、電機・情報通信機械工業同-6.6%、電子部品・デバイス工業同-4.3%、輸送機械工業同-1.3%等が低下し、金属製品工業同2.0%、その他工業同0.5%、化学工業同0.2%等が上昇した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)  
 Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成27年基準)  
 (2015 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表  
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成27年 = 100  
index.2015 = 100

年 月	生産能力(末) Production Capacity			稼働率 Operating Ratio				Year and Month
	原指数 Original Index			季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		
平成 27 年	99.7		-0.2			100.0	-2.7	C.Y. 2015
28	99.3		-0.4			98.5	-1.5	C.Y. 2016
29	99.3		0.0			102.3	3.9	C.Y. 2017
平成 27 年度	99.6		-0.7			99.3	-2.6	F.Y. 2015
28	99.0		-0.6			99.2	-0.1	F.Y. 2016
29	98.8		-0.2			102.7	3.5	F.Y. 2017
平成29 年 III期	99.2	0.2	-0.1	102.5	-0.3	102.1	3.3	Q3 2017
IV期	99.3	0.1	0.0	103.8	1.3	103.6	3.5	Q4
平成30 年 I期	98.8	-0.5	-0.2	101.9	-1.8	103.7	1.3	Q1 2018
II期	98.5	-0.3	-0.5	103.2	1.3	101.5	0.3	Q2
III期	98.6	0.1	-0.6	101.4	-1.7	101.0	-1.1	Q3
平成29 年 7月	99.2	0.2	-0.1	101.6	-1.0	104.7	3.4	Jul. 2017
8月	99.2	0.0	-0.1	103.1	1.5	97.4	4.2	Aug.
9月	99.2	0.0	-0.1	102.8	-0.3	104.3	2.8	Sep.
10月	99.3	0.1	0.0	102.8	0.0	103.8	5.6	Oct.
11月	99.3	0.0	0.0	103.4	0.6	104.2	2.0	Nov.
12月	99.3	0.0	0.0	105.1	1.6	102.7	2.8	Dec.
平成30 年 1月	99.0	-0.3	-0.2	99.8	-5.0	97.6	1.2	Jan. 2018
2月	99.0	0.0	-0.2	102.4	2.6	101.5	1.3	Feb.
3月	98.8	-0.2	-0.2	103.6	1.2	112.1	1.3	Mar.
4月	98.6	-0.2	-0.3	105.1	1.4	101.8	2.1	Apr.
5月	98.7	0.1	-0.2	103.8	-1.2	99.4	2.6	May
6月	98.5	-0.2	-0.5	100.7	-3.0	103.4	-3.4	Jun.
7月	98.5	0.0	-0.7	100.3	-0.4	104.9	0.2	Jul.
8月	98.5	0.0	-0.7	102.7	2.4	97.0	-0.4	Aug.
9月	98.6	0.1	-0.6	101.2	-1.5	101.1	-3.1	Sep.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2015\\_201809nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2015_201809nj.pdf)

## 2. その他の動向

### 1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2018. 10. 31 発表) を公表しました。

・ 2018 年 6 月グローバル出荷額は 3,619 億円、前年比 106.1% となり、前年比プラスとなった。

・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 121.5% 1,511 億円)、接続部品 (同 90.6% 891 億円)、変換部品 (同 102.3% 704 億円)、その他の電子部品 (同 103.4% 512 億円) となった。

・地域別出荷は、日本（前年比 100.4% 742 億円）、米州（同 118.7% 363 億円）、欧州（同 106.7% 326 億円）、中国（同 106.8% 1,333 億円）、アジア・その他（同 105.0% 855 億円）となった。

## 【月別出荷金額】

### 1. 月別出荷金額（2018.10.31 発表：毎月更新）

電子部品出荷額（億円）	2018年度						2018年度累計		
	6月		7月		8月		4月-8月		
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	
世界計	3,367	102	3,466	104	3,619	106	16,965	105	
(日本)	810	105	798	103	742	100	3,861	104	
品 目 別	受動部品	1,386	114	1,443	118	1,511	121	7,000	118
	コンデンサ	968	119	1,029	124	1,078	129	4,967	124
	抵抗器	139	103	139	106	140	109	690	107
	トランス	40	102	40	106	37	102	199	105
	インダクタ	214	99	230	101	251	101	1,126	102
	その他	3	-	3	-	3	0	17	0
	接続部品	862	92	856	91	891	90	4,260	93
	スイッチ	355	87	353	86	351	82	1,750	88
	コネクタ	502	95	498	96	534	96	2,485	96
	その他	5	96	5	98	5	98	25	94
	変換部品	678	107	701	105	704	102	3,377	105
	音響部品	154	99	146	89	126	87	718	93
	センサ	292	101	298	102	308	103	1,487	104
	アクチュエータ	230	121	256	122	269	110	1,171	115
	その他の電子部品	440	87	465	95	512	103	2,327	96
	電源部品	187	89	182	95	187	95	932	94
	高周波部品	252	85	282	94	324	108	1,395	97

## 【地域別出荷金額】

### 2. 地域別出荷金額

※2018年度※

地域別出荷金額（億円）	2018年度						2018年度累計	
	6月		7月		8月		4月-8月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,367	102	3,466	104	3,619	106	16,965	105
日本	810	105	798	103	742	100	3,861	104
米州	326	109	338	121	363	118	1,693	115
欧州	344	105	332	108	326	106	1,675	107
中国	1,159	98	1,233	104	1,333	106	5,982	104
アジア他	729	101	767	100	855	105	3,771	102

#### ※電子部品グローバル出荷統計について

- 本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業間のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- 本調査は、参加70社から提出された、連結ベース（グループ別取引調整後）の出荷額データをとりまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。
- なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっています。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上